

猫耳カット変更も即撤回

MAINichi

新毎日

5月13日(金)

2022年(令和4年)



V字かストレートか。不妊・去勢手術をした印として野良猫の耳に入れる切り込みを巡り、県内の自治体で騒乱が起きた。手術を担当する県が2022年度から、切り込みの形をストレートにすると通知。多くの市町村が反対し、わずか1カ月ほどで撤回に追い込まれた。「反論の多さに驚いた」と話す県の担当者。何が問題だったのか――。

【広瀬晃子】

県、所有者不明TNR事業



海胆の舞台となった
県と市町村が実施して
いる。保護した野良猫
動物保護団体などに
よると、野良猫が繁殖
して地域に戻す「所有者
不明猫TNR事業」で、
実施している。

「判別が困難」反対多数

一般的なのは耳の先
端をV字にカットする
形式で、県も同様の方
法を取ってきたが、

「耳が傷ついた猫
と区別が付がないこと
などを理由に、引年度
ト」を実施。22年度から
は全ての猫にV字カット
とマニコアルを「猫の
県」と指摘する。全



左耳をV字カットされた猫

――いずれもどうぶつ基金提供

を抑制し、地域で育て

てもらおうというのが

狙いだ。事業名の「T

N」は「Trap(捕獲)

」が、各自治体や、抽選

する「N」は、V字にカットされ

た耳が後の花弁に見え

ることから、手術済み

の猫を「さくらねこ」

トカットは時間がたつ

と切った部分が体毛

で覆われてしまう。そ

うに、そのままの状態で

と呼び、チラシや冊子

などで文書を呼びかけ

る。担当者は「カット

猫かどうか判別が難し

い方法が複数と紹介わし

く、支援者にも理解さ

ることから、手術済み

の猫を「さくらねこ」

アラだった。ストレー

ト（手配市）が手術

をスタート。各自治体

のボランティアが捕

獲した野良猫に、県中

くなく、どの猫を保護

和健康動物愛護セン

タ（手配市）が手術

すればいいのか分からな

い。そのため、「V字カット

の結果、手術を受けた

猫がどうか判別が難し

い方法が複数と紹介わし

く、支援者にも理解さ

れにこゝ」と語る。

事業に関わる御所市

は4月25日、普段する

他の22市町村などと連

絡んで、署名欄を求める要請書を提出。反論

の大ささを踏まえて県

は、5月2日付でV字

カットに関する市町村

に通知した。担当者は

「欧米でもやっている

ところがあり、分かり

やすらと思った」と説

明する。御所市の担当

者は「関係機関に事前

の協議や説明もなく、

いきなりの悪送だ。

「ストレートカットを

た」と振り返り、「（撤

回）の先端をV字カット

してしまった」とは茶真

景以外にないのではないか

かも知れない。今後は県と力を合

わせ、活動に取り組みた

い」と語っている。